時空を共有するコミュニケーションでありたい

遙か遠方で、日々筋ジスの方々と係わり合っているメル友からメ・ル。

【 君が班会に出る前に、「話があるから時間を」というの。「二十歳まで生きられないと言われてた。二十五になっても生きていた。今三十過ぎて生きていて、いいのか? 父母姉に負担かけている。生きていていいの…?」と。

気管切開して、呼吸器の蛇腹をつけて声が出ないから、これだけ云うのに大変な苦痛と時間のパワーが要る。「存在するだけで、全ていいの。生きて存在することが愛なの。」と応えたの。彼はずっと涙してた。ティシュで拭いてやりながら、それだけ言ったの。今、彼に何が言わせたのか…。ずっと心に。】

次のように返信した。

【 その青年のように、家族に迷惑をかけていると思っている方が多いでしょうね。親は親で、子どもに病気故に辛い思いをさせて……と思っているでしょうね。

つい、最近の子どもの親殺しの報道と重ねてつい考えてしまう。

貴女のメ・ルのような事例はお互いの思いやりという話は、一見切なく聞こえるが、その想いが負担になり「生きていていいの…?」という。

一方、報道の方は、子どもは自分の気持ちを親は分かってくれないという。親は子ども のことを思い、あれこれいう。それが負担になり惨劇への行動に出てしまう。

両極端の話であるようだが、いずれも、親子の気持ち、想いのすれ違い故の悲しさということでは同じ…。

交信行動の背景である時空の問題を考え続けたい私としては、個別的な、切ない話、また、痛ましい話というだけでは終わらせたくはないです(大げさにいえば、地球号という時空にお互い乗り込んでいるのですものね)。

まず、お互いの存在を認め合う時空を共有するコミュニケーションがないとね。

貴女とその青年は短時間でも時空を共有したのだから、正にコミュニケーション。

最近の子どもの親殺しの報道を知るにつけ、同じ家という建物空間を共有していても、 コミュニケーションという時空を共有していない故かと思えてなりません。

この観点は、あまりにも冷めた見方ということになるかなあ~。 】